

なまろーど

The Name Road

ホームページアドレス
http://www.ranshokai.jpE-mailアドレス
info@ranshokai.jp

発行所 高岡教区寺族青年会
住所 〒933-0878
高岡市東上関466
西本願寺高岡会館内
発行人 清水 了涉
編集者 広報部
発行日 2015年3月31日

会長挨拶

鸞翔会

第二十代会長 清水 了涉



日頃より寺族青年会の活動に多大なご理解とご協力をいただき、まことにありがとうございます。

今年度は、八月に第二十回ダイナ・バザーを、皆様のおかげにより無事開催することが出来ました。改めて御礼申し上げます。その他の年度行事としましては、連研で「カルト宗教問題」について学びを深め、実践運動研修会では今まで寺族青年会で行ってきた東日本大震災ボランティア活動を振り返りました。八月には広島で豪雨災害が起こるなど、あらためて災害の多い国日本だと知らされました。ボランティア活動を振り返り、「何

ができるのか」ということを今後も考えていきたいと思えます。

先日あるテレビ番組で、学生自治体が自治して運営されているという学生寮の様子が紹介されており、その中で、学生寮の寮長を決める選挙の様子が流れていました。学生寮の中でもどんどん選挙に関する興味・関心が薄れているそうで、投票率を上げるのに選挙を管理する人間が頑張っている姿がありました。その中で、ある学生の一言が胸に刺さりました。それは「立候補する人がいなくなったら、もう自治は終わりだなんて思うのですよね。しょうがないからってこのじゃないですけど、場の雰囲気では本当はやりたくないけどやっという雰囲気生まれたら自治じゃなくなるって思う」という学生の言葉でした。自治という自分たちで決めることに「やらされている感」が出ていないということ、もはや自治ではないということ、厳しい言葉だと思いました。

厳しい言い方かもしれませんが、もしかしたら今の寺青にも同じことが言えるのではないかと思います。自分も自ら立候補したとはいえないので非常に耳の痛い言葉でした。これといった主張をしない、主体性のない今の寺青の状態は、もしかしたら色々考える時期に来ているのかもしれないと思いました。これは、寺青だけのことではなく世の中の流れなのかもしれませんが、今一度よく考えていくことが必要なことなのではないかと思えます。

来年度は寺族青年会発足四十周年になります。記念行事の開催も予定しております。今後とも変わらぬご指導ご助言を賜りますようお願い申し上げます。



寺青研修旅行 「蓮如上人ゆかりの地を訪ねる」

平成二十六年三月二十四日

梁瀬聖志

平成二十六年三月二十四日、福井県吉崎の地において寺青連研が行われました。

今回の連研は研修会といった堅苦しいかたちはとらず、蓮如上人ゆかりの地を訪ねるということでも本願寺吉崎別院を訪ねました。まずは別院本堂にてお参りをさせていただき、続いて輪番さんより蓮如上人と吉崎との関わりについてお話を聞かせていただきました。また、蓮如上人の御真影が安置されている中宗堂にも案内をしていただきました。その後に行った資



料館では、蓮如上人御真筆の六字名号や正信偈など色々な上人ゆかりの物を目にする事が出来ても貴重な体験になりました。最後に念力門と呼ばれる門の前で記念写真を撮り別院を後にしました。また、周辺散策として別院裏の山頂にある吉崎御坊跡に行き、別院参拝同様に蓮如上人のおこころに触れることが出来たように思いました。

御坊跡へ向かう途中には真宗大谷派の寺院・願慶寺さんがあり、ここでは有名な「嫁威しの面」の物語を落語家顔負けの口調でお話しされるご住職がおられました。また、吉崎御坊の由来や東西の別院についても併せてお話ししてくださいました。

締めくくりは片山津温泉へ移動して懇親会でした。平日ということもあり今回の参加者は十名と多

くはありませんでしたが、親睦をより一層深めることが出来たと思います。

現在の寺青は研修会をしてもなかなか参加者が集まらない傾向があるので、これからは親睦をメインにした寺青活動もいいのかと思います。

全国真宗青年の集い

平成二十六年
七月二十六日～二十七日
富永誠

寺族青年会も仏青連盟の一団体であります。基本的に仏青のつどいは、土日開催されるため、住職やこれから住職になろうとしている青年僧侶には日程的に参加が厳しいものがあります。また、仏青は門信徒中心というイメージもあり、予定がなくても、参加しにくいかもしれません。

そんな中、今年度は二つの集いが開催されました。七月二十六、二十七日に開催された全国真宗青

年の集いin北海道、九月六、七日に岐阜で開催された第二連区真宗青年のつどいの両つどいです。特に北海道で行われた集いは、毎年の開催から次回より三年毎の開催に変更されるため、実質的に最後の大会となります。今回、寺青からは四名の参加で、大自然の中様々な出来事がありました。特に清水寺青会長のジンギスカン食べ放題における時間配分の確さ、楠会計が中心となり手際よく肉を焼く姿は、見習うべきものがありました。

また、岐阜でのつどい（三名の参加）では、高速道路走行中タイ



ヤがパンクするというアクシデントにも、福田広報部長が様々な手配をしてくれて、この人についていけば間違いない！とこの時、上下関係が決まりました。

つどいの内容については、講演会、ファッションショー、寺院巡り等、それぞれ地の利を生かした盛りだくさんの内容でした。是非一度参加をしていただけたらと思

います。

そこで参加をしてみたいと思われた方に良いお知らせがあります。二〇一五年九月五〜六日に高岡教区主催で第二連区真宗青年のつどいが開催されますので、一緒に貴重な体験をいたしましょう。詳しく話を聞きたい方は、高岡教務所の富永までお問い合わせください。

第一回連研

「カルト宗教問題を考える」

平成二十六年八月五日

楠 北斗

二〇一四年度の第一回連研は、「カルト宗教問題を考える」というテーマで八月五日に西本願寺高岡会館において開催されました。世の中には様々な宗教があります。その中にはマインドコントロールによって正常な判断力を奪い、教団や教祖に依存させ、搾取や反社会的行動によって多くの不幸や悲劇を生み出しているものがあります。

この連研では日本脱カルト協会理事棚原正智氏を講師にお招きして、カルトの定義を知る所から始め、その類型や入信の過程を押さえ、その実態や被害を防ぐための取り組みなどについて学びました。特にマインドコントロールのプロセスについてはその複雑さと巧妙さに大きく驚かされました。解凍（不安や恐怖心をあおって自尊心を高めていく）↓変革（不安に対

しての明確な解決策を提示して新しい人格を植え付ける基盤を作る）↓再凍結（次第に研修でより長い時間を拘束する。外と隔絶した環境の中などで都合の良い情報を提供して正しい事だと確信を持たせ、疑問を持たせないようにする）という三つの繰り返しは、確かに意思を弱らせて、グループにとって都合の良いように操作されるといふ危険を感じるに足るものです。

また、親などはカルトに入った人に元に戻って欲しいと入る前の姿に回歸することを望むが、時間は巻き戻らないので新しい着地点を模索するしかないという話も伺いました。このような問題に直面した時には、今回の学びを活かして注意深く対処したいと思えます。

第二十回

ダーナ・バザー

平成二十六年八月二十四日

草野雅信

ある日、寺青事務局長から携帯が鳴り、ダーナ・バザーの実行委

員長をしてほしいと言われた。平日農協に勤める私は、行事の準備や役員に携わることには難しいと伝えたが、仕事をしながらでも寺青の活動ができるということを示してほしいと説得を受けた。条件として、バザーを知り尽くしている優秀な前事務局長を実行委員に加え、さらに今後活躍してほしい会員も選び実行委員が発足した。が、正直なところかなりの重圧だった。何故ならば、準備の段階から携わったことがなく、仕事の合間に出来るか不安だったからだ。さら



に私は、開催当日まで六回も会議を開き準備をしていたことを初めて知った。会議では、過去の反省点に気を配り、少しでも円滑に当日動けるよう実行委員と議論を重ね、寺青会員に諮り準備を進めた。

バザー当日は、寺青会員・宗生の大学生・龍谷高校生の皆で力を合わせて接客・販売が出来たと思う。沢山のお客様に来場して戴き、我先にと商品を購入しておられ、楽しそうだった。商品もほとんど売れ残らず、大きなトラブルもなく無事終わって本当に良かった。しかし、年々出品数が減って収益金は下がっており、またバザーに参加していた寺青会員は毎回の固定されたメンバーで、若い世代や兼業の会員が積極的に参加してもらえないように声掛けをしていくことが今後も継続するための大きな課題だと感じた。

終わりに、皆様のお陰で無事大役を果たせ、貴重な経験ができ感謝している。有難う。

第7回 東日本大震災復興支援活動

平成二十六年九月一日～三日

向田 永朗



宮城県石巻市北上（先生十名・生徒七十四名が津波でお亡くなりになった大川小学校がある所）にて、桜並木を作るための整地作業を行ってきました。出発直前の案内では「除草作業が主な内容」と書かれていましたが、結論を先に言うと「除草作業」は全くしていません。現場には確かに草刈り機が用意されていましたが、それで

刈るのは草ではなく、手首程の太さがある木々でありました。腰を使ってひたすら樹木に草刈り機を使いこみ、伐採した枝を熊手でかき集め続けるといって、道なき道（といつか山）を開拓していく二日間でした。

何故こんな事をしていたのか？三陸海岸では今、地元の方々と花に携わる有志（花屋さんや庭師さん等）を中心とした『さくら並木ネットワーク』による、桜の植樹活動『さくら並木プロジェクト』が各地の津波最高到達地点で行われています。

この活動は、百年に一度は三陸を襲う大津波の被害を風化させない為に樹齢百年を超す桜並木を植える事で、次世代に防災意識と対応準備の大切さを伝え続け、さらにこの場所が津波からの避難目標場所となる事を願って始まったものです。

また、石巻市北上の方々には、「この地では悲しい気持ちしか生まれない」という家族の心に、少しでもプラスの感情をもたらしたいという願いもあるようです。今回の支援活動が、少しでもお役に立てばと願っています。二〇一五年三月二十二日に桜が植樹されました。

実践運動

研修会報告

平成二十六年十二月十五日

岡 西 好 持

今年度は発生から四年を迎える東日本大震災への今までの支援活動の報告として行われ、宮城県担当と福島県担当の会員から今までの活動の総括と支援を通じて学んだ課題と問題点について報告いたしました。

報告の中では、未だ二十六万人以上の方が避難生活を余儀なくされている一方、地域のボランティアセンターが閉鎖されたり、活動規模が縮小し、支援活動に参加で

きるような受け皿自体が無くなりつつあることや、震災の記憶の風化によって、避難生活を送る方が白眼視され、地域で孤立していくといった問題が挙げられました。

それを受けた全体会での意見交換では、「このような現実があると知った上は、この問題から目を背けるわけにはいかない。」「無関心が無理解となり、偏見につながる」という構造に私達自身が陥ることも十分にある。被災地の現状を学び続けることが必要。」等の意見が出されました。

最後に清水会長より「今までの活動報告をいたしました。これで支援活動を終わるつもりではありません。四年の月日は経っていますが、むしろ被災地は未だに問題が山積みです。それにも関わらず世間から顧みられなくなりつつあるというのを支援活動を通じて私たちは学びました。できることは非常に限られているのが実状ですが、何ができるかを自分たちで考え、取り組んでいきたいと思えます。」と、今後も寺族青年会として支援活動に取り組んでいくことを確認するまとめがあり、閉会しました。



浄青僧全国大会in備後

平成二十七年二月二十五日～二十六日

青木 哲隆

二月二十五日、二十六日に広島県福山市で開催されました浄青僧全国大会に参加しました。今回のテーマは『現場力』～備後だヨ!

二月二十五日、二十六日に広島県福山市で開催されました浄青僧全国大会に参加しました。今回のテーマは『現場力』～備後だヨ!

瓜生崇氏に「現代のカルト問題なぜ伝統仏教よりカルトを選ぶのか」と題しお話いただきました。

カルトとは？カルトの問題点、カルトに入る人など、カルトの概念についてお話いただいた後、親鸞会の問題点や教義の違いなど二時間半たっぷり聞かせていただきました。

二日目は、吉本興業所属の笑い飯・哲夫さんの「笑い飯 哲夫のおもしろ仏教講座」を聞かせていただきました。これは、本当に面白かったです。終始会場は爆笑に包まれておりました。内容も仏教の事をしっかりと勉強しておられ、それを如何に面白く表現しようかという熱意が伝わってきました。

二日間の講演を聞いてお二方とも「仏教が好きなんだなあ」と共通して感じました。お話に引き込まれていきますし、もっと聞きたくなる。それは、「お話のプロだから」ということだけではないようです。その語りの中に熱があるのです。それが、伝わります。

それに比べて、私の「現場」で、ご門徒との関係の中に熱はあったでしょうか？その教えがどんな

に素晴らしいものであっても、それを伝える側に熱がなければ伝わりません。

あなたは、本当にお念仏を喜んでいますか？仏教好きですか？それを伝えようとしていますか？お二人に尋ねられたような気がしました。

帰りに「流星ワゴン」の撮影「現場」を観光し、大きな課題をいただいて福山を後にしました。

ボウリング大会

平成二十七年三月九日

- 一位 村上 昂文 一九八P
- 二位 野田 龍亮
- 三位 耳浦 康真





声 明 サークル

代表 岡田 寛

声明サークルでは、一年を通じて月二回程度のペースで声明の練習を行っています。

今年度も、七月の「井波別院特別永代経」へ向けての練習からスタートしました。今回は差定をアレンジした『重誓偈作法』を勤めました。今回は別院での習礼ができなかったものの、本番では無事に勤めることができました。

また、十一月に高岡会館で行われた「親鸞聖人を語る夕べ」の音楽法要には、寺青OBを含む四名が結果として参加しました。こちらには定番となった『宗祖讃仰作法』の音楽法要を勤めました。

いずれも寺青会員全員が参加対

象になっていきますので、気持ちがある方はご協力をよろしくお願ひします。

通常の声明練習は基礎から実践練習まで幅広く対応しております。来年度も様々なシーンに合わせて、声明サークルを活用していただけたらと思っています。どうぞ気軽にご参加ください。

フ ッ ト サ ル

代表 水上 賢志

フットサルサークルでは、平日の午後から月一回〜二回ほど、砺波市内の体育館にて練習を行っています。

昨年の六月に東京にて行われた浄青僧フットサル全国大会では、主力のケガもありましたが、見事に準優勝をなすことができました。ちなみに優勝は開催地区の東青僧でした。次回の大会は六月十八日に北海道にて開催予定です。今度はぜひ優勝したいと思ひます。その為にも新たな参加者を募集中です。少しでも興味がある方はぜひ一度参加をお願いします。初心者、未経験者も大歓迎です。参加者のほとんどが未経験者なの

で、気軽に来てほしいと思ひます。いずれ、高岡教区でも全国大会を主催したいと考えております。その際は、また皆様のご協力の程よろしくお願ひします。

手 話 サークル

代表 射水 梓

手話サークルでは昨年度に引き続き今年度前半も、ろう者劇団「おんによる座」の脇坂菊雄さんをご講師に迎え、月に一回程度のペースで活動を行いました。

主な活動内容は日常的な手話の語彙を増やす練習と、手話コーラスなどです。

現在は手話サークルの活動をしばらくお休みしておりましたが、また練習を再開したいと思ひっております。

今まで手話を習ったことのない方でも手話に興味をお持ちの方、新規にサークルに参加してみたいと思われた方には今後の手話サークルの練習日程等お知らせいたしますので、射水までお問い合わせください。

蓮 花 の 会

代表 篠島 麻子

蓮花の会は、三月に初顔合わせをやった行いました。それぞれが、子育てや寺の法務などでなかなか予定が合わない現状です。そんな中五名でランチをしながら、今年の活動計画から寺の活動について、またたわいもない話に花が咲いて楽しいひと時を過ごしました。もっと多くの方に参加していただければ理想ですが、人数が少なくてもそれはそれなりの密度の濃い、距離が近いお話ができてよかったと思ひます。

他にも勉強会など出来ればよかったのですが、私の腰がなかなかあがらず：顔合わせのみで次年度引き継ぎになりました。申し訳ないです。

来年度は土合さんが、いろいろな楽しい企画を考えてくださっていますので、期待しています。ありがとうございます。



第二十七期収益事業

(法輪せんべい販売)

耳浦康真

今年度の法輪せんべい販売は、前年度のせんべい製造費や前年度の消費税増税、せんべい梱包費用等の必要経費の値上げを受けて、法輪せんべいの販売価格を値上げしての始まりになりました。値上げ当初は、「販売価格が上がったので、今まで買ってくださっていたお客さんから、買ってもらえないのではないかと心配していましたが、前年度と変わらぬに多くの常連のお客さんから注文があり、安心しました。しかし、県外などの遠方のお客さんからの注文が減ってしまい、毎年大量に購入してくださるお客さんに連絡したところ、やはり値上げしたことによって、「今年から購入をやめさせてもらおう」という返事でした。このことから、「対面販売をできない県外などのお客さんに、しっかりと値上げの意図を伝えるべきだった」と反省しました。

また今年度は北陸・中部ブロックの仏婦大会が五月にあり、そこで、用意していった小箱七百五十箱を完売しました。当初は百円の値上げもあって、売れるか心配でしたが、昼休みのステージ上でのマイクパフォーマンスの成果もあり、なんとか完売することができました。

次年度からは、担当者自身も寺青引退年齢が迫っているため、後継者を早く決めなくてはいけません。そのためには寺青会員の皆さんの協力が必要ですので、法輪せんべい販売の趣旨の理解をもう一度、よろしく願います。

新入会員紹介

新入会員の方にインタビューしました。

- ① 趣味または特技は？ ② 苦手なものは？ ③ 何か一言



糸岡組 順向寺 平野 俊さん
 ① 旅行
 ② 赤ちゃんの泣き声
 ③ これからもいろいろとよろしく
 願います。



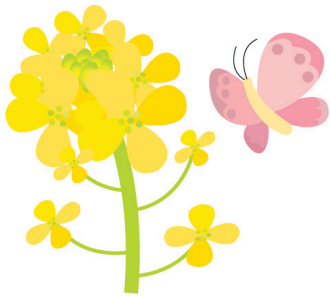
砺波組 明覚寺 林 要順さん
 ① 麻雀
 ② 貝類
 ③ 高岡での生活が短い為、不慣れな事も多いです。御迷惑をおかけするかもしれませんが、よろしく願います。



射水組 光照寺 公文名 智さん
 ① 映画鑑賞・制作、野球
 ② 水泳
 ③ ご縁を大切にして、様々な活動に取り組んでいきたいと思えます。



射水組 光覚寺 青雲 乗峻さん
 ① クライミング
 ② トマト
 ③ よろしく願います。



<http://www.ranshokai.jp>

ホームページ
随時更新中!!

法輪せんべいのご案内

法輪せんべいは、当会が販売する法輪マークと法語が印された一袋二枚入りのおいしいせんべいです。ご法要のお供えにお茶受けやご贈答などに幅広くご利用いただけます。（※表示してある価格は、いずれも販売価格です。）



パッケージはサクラと若草色の二色です。



写真上は大箱（36袋入り）2,300円

品目	袋数	価格
特大	170	8,300円
大箱	36	2,300円
1組	10	500円

お申し込み、お問い合わせは

〒933-0003 高岡市能町1298 本誓寺内

耳浦 康真まで ☎/FAX (0766) 23-9822

ついに鸞翔会会報である「なまもろーど」も第四〇号を迎えました。近年は、恒例行事と共に、研修旅行など会員相互の親睦を深める行事も多数企画されています。今号においても、会員の皆様には各行事の執筆依頼を快くお引き受け下さり、誠にありがとうございました。現広報部もこれで任期を終えます。思い返せば、「なまもろどうろ」含め、執筆依頼が直前になることもしばしばで、広報としての責務を十分に果たせなかったように思います。そんな中でも、広報部メンバー始め多くの方々に支えていただき、心から感謝しています。来年度には四〇周年記念事業を控え、会の活動も一段と活発になってきます。次期広報部には、会の魅力をより広く伝えていってくださることを期待しています。二年間本当にありがとうございました。

